

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270401134		
法人名	メディカル・ケア・サービス㈱		
事業所名	愛の家グループホーム千葉小倉		
所在地	千葉県千葉市若葉区小倉町1802-15		
自己評価作成日	令和5年6月7日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援(栄養管理) 生活機能向上(個別運動) 月1回の外食支援 夜間女子会の開催 職員全員がケアプランを理解し、介護記録がかけている 手作りの食事
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15
訪問調査日	令和5年6月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、千葉モノレール小倉台駅より徒歩10分の静かな住宅街に立地し、近隣地域との関係性を深め常に入居待ちの状況にある。法人運営理念「よりよい未来のために。～私達の理念～」を基に、当事業所は独自の理念を掲げ、①安心・安全の確保、②個々のケアを大切に、③サービスの質の向上を掲げて利用者の自立支援を行う、を実践している。自立支援を基礎に生活機能向上を目指し、全社介護記録情報システムを全スタッフが活用し、ケアプランの運用管理を含めた入居者全員の日常個別生活介護支援状況を一元管理している。訪問ドクターやケアマネージャー及び施設スタッフ全員が、安心・安全の確保とサービスの質の向上に繋げている。入居者の93%の方が「事業所のサービスを利用することで、ご本人の生き生きとした表情が見られるようになった。ときどき見られる。」とアンケートに回答され、高い満足度を得られていることが伺える。月1回の外食支援、夜間女子会の開催、手作りの食事や楽しいイベント食など、利用者とスタッフが一体となり取組まれている結果が現れている。特に、1階・2階の利用者リーダーを中心とした施設内運営全般の協働体制は、看取りケアや医療・介護の支援専門家との連携などを含めた利用者とスタッフの理想的な関係性が確立・運用されている。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に沿い穏やかな生活の支援に努めご利用者様の思いを尊重したケアを心掛けている。	スタッフ全員、利用者への個別ケア状況を都度スマホ入力することにより、リアルタイムで全入居者の生活支援状況がデータ管理される。このシステムを活用することで、利用者一人ひとりの思いに即したケアが見える化されている。また、事務所に掲示された「ヒヤリハット管理表」等による情報の一元化に基づき、事業所独自の運営理念に基づく質の高いサービスが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際に挨拶。	毎日午前午後に分けて、職員と1対1でホームの周辺を20分程度散歩し、近隣の方々との挨拶を交わすのが利用者の日常である。また、外食や食材の買い出しなども利用者とスタッフが寄り添い、役割を持った行動を共にすることで楽しい生活がおくれるよう協力し合っている。また、小倉台公民館でのふれあいいきいきサロンなどにも積極的に参加し、近隣地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	必要に応じて、関連事業所に連絡している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、地域包括支援センター・ご利用者様が参加している。	コロナ禍で中止していた運営推進会議を約2年ぶりに2022年6月に再開し、3ヶ月に1回開催している。自治会会館を借りて開催し、参加メンバーは、自治会、地域包括支援センター、ご利用者様。次回推進会議は2023年8月を予定し準備に入っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主にホーム長、ケアマネが担当者と連絡を取り合っている。	若葉区高齢者渉外支援課の担当者との相談や連絡等は、メールや電話でホットライン的に綿密に連携している。また、介護保健室との連携も充実している。特にコロナ禍では、市担当者の方から直接困っていることはないかとの問合せもいただき、品薄状況の中でもマスクや抗原検査キットをかなりの量送って下さり、大変助かっている。など、協力体制がしっかり確立されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時に身体拘束について研修を実施している。身体拘束委員会を3か月ごとに開催している。	虐待・身体拘束等に関する職員研修は、しっかり取組んでいる。新人研修では本部のZoom研修受講後、当施設への配属時点で「防災」「虐待防止」「感染症対策」の3本セット研修も必須。その後、身体拘束委員会を3ヶ月毎に開催している。また、全職員が「『虐待・不適切なケア』チェックシート」30項目、「『身体拘束』チェックシート」16項目にチェックやコメントを記入し提出する。身体拘束廃止委員会で検討した結果を個々の職員にフィードバックし、最終的には法人本社へ報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待・不適切なケアチェック表」を3か月毎に職員全員が記入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1度研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主にホーム長、ケアマネが担っている。入居後は、ホーム長・ケアマネに加え全職員でご家族様と連携をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様の日頃の様子をユニット会議、全体会議で話し合い運営推進会議などで報告の機会を設けている。	毎月千葉小倉通信を発行し、A3用紙一面に、ホーム長のコメント、行事予定、イベント結果、往診結果、生活機能向上計画、入浴状況、担当スタッフからのコメント及び利用者の日常の写真等を載せて、家族へ送付している。また、面会については、コロナ禍でも面会制限は基本的には行わず、来所されたご家族には感染症予防の観点から対策を徹底しながらも面談機会を大切にしている。また、Webでの面会も月1回行っており、遠方家族との面会にも取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ユニット会議、全体会議を実施している。職員は年に3回ホーム長と面談している。	毎月行う全体会議やユニット会議では、職員から多くの意見や提案が出ており、年3回行う職員個別面談や職員アンケートと併せてサービスの改善、ケアの質の向上に繋げている。一方、第三者評価とは別に全社的に実施している独自評価制度の運用結果を、各職員にフィードバックすると共に個別面談を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を実施している。 キャリアパスの評価項目を職員に配布し質の向上に努めている。 職員の誕生日会を毎月行っている。 職員アンケートを年に1回実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の会議時に研修を2つ以上実施している。6月からは担当制で職員が研修を実施する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の運営推進会議に参加している。 (職員が交代で参加できるようにしている) 愛の家グループ内で他施設にヘルプスタッフで行くことがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様に寄り添い不安をなくす。ご家族様の面会頻度を多くする。他利用者様との関係作り。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と直接お話する機会を細めに設けて不安・要望に理解・受け止めるよう努めている。面会時は、どの職員もご利用者様の最近の様子を話せるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ユニット職員全員でアセスメント作成。できる事を見つける。情報共有。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の一部として暮らしに必要な不可欠である料理・洗濯・買い物などと通じて安心できる生活を支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話報告、月一回の手紙等によりご利用者様の様子を随時お知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様との外出先など自宅へ帰ることもある。ご利用者様の友人などホームに来訪されることがある。ご利用者様の友人にお手紙や電話の支援を行っている。	当ホームでは、ご家族との関係や友人との関係、入居者自身の希望については特に制限を設けず、出来るだけ希望に添った生活を実現できるよう支援をしている。外泊や友人との外出などについては、出来るだけオープンに対応している。一方、当施設運営の中で、入居者の希望に沿った役割を担っていただき、居室の清掃や食事の支度、食材の買い出し、イベントの準備など、スタッフと入居者が一体となって楽しい生活を実践している。また、看取りケアについても、入居者全員で暖かく接しスタッフと一緒に家族同様に接していることは当施設の素晴らしい特徴の一つである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がよりよい関係が築けるよう職員が間に入りきっかけ作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、必要に応じて主にホーム長・ケアマネにより相談・支援を受けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様に合わせて居室にポータブルトイレを置いている。1日1回外を歩きたいという思いを支援している。希望に沿って電話支援をしている。	ホームでの生活に満足してもらおうという基本的な考えを基に、歩行困難で夜間にトイレに行くのが大変な人にはポータブルトイレを居室に置いている。昼食後に必ず散歩したい人がいて、職員が付き添ってホーム周辺を歩いた後はさっぱりとした表情となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境の情報収集をし、居室づくりをしている。ご利用者様のやりたい事を支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士の申し送りを徹底し日々の状態・様子の把握に努めている。ご利用者様に役割を持った生活をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や職員情報を基に御本人のニーズを話し合い、またご家族様との意向を合わせながら作成にあたっている。	外に出たいという希望が強い人には庭での草取りをお願いしたり、夜食が好きな人には週2回分程度のカップラーメンを職員が買ってきて保存しておくような支援も取り入れている。職員は気が付いた時点で介護記録に入力するようしており、職員間での情報の共有化ができていて敢えて介護計画に組み込むまでもなく、新しい支援が自然と行われる仕組み作りが出来ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録から情報収集をし積極的に実践を行い、それに対するモニタリングを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご利用者様の様子に応じて柔軟なサービスの向上に努めている。ご家族様にも協力して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を有効活用しながら日常生活の中で笑顔を多く引き出せる様努めている。運営推進会議では、民生委員と意見交換を行っている。散歩時にゴミ拾いを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の往診の他に必要時、緊急時適切な医療が受けられるように支援している。	入居前からのかかりつけ医をホームの提携医へ切り替えることは強制していないが、家族の負担等から提携医への往診に切り替わる傾向にある。心療内科、整形外科、眼科は現在、家族が連れて行っている。詳細に記録された「介護記録」の一週間分のコピーを家族に渡し、がかかりつけ医に見せるだけで医師が状況を判断できるような形となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護にて日々の健康状態、様子を報告し助言を頂いている。又、24時間体制も整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員は、医療機関と情報共有を作っており退院時には主治医より留意点を伺っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人・ご家族様・主治医と話し合いを設け、最期までその人らしい穏やかな生活を支援できるよう全職員で努めている。	現在、看取り中の利用者が一人いるが、看取りとはいえ他の利用者と分け隔てなくリビングで一緒に生活している姿は他の施設では見られない光景と言える。ベッドに寝たきりにすることなく、日常生活の最低のことでもやって体を動かし生きる力を失くさないように心掛けている。同じユニットでの仲間として助け合って皆と最後まで暮らし通す姿は他に例を見ないと言えよう。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルの把握、定期的に勉強会を行い、全職員が理解できるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い緊急時に備えている。その際、ご家族様の参加・近隣住民に声掛けを行っている。職員全員が備蓄食材を把握している。	6月と11月に消防の自主訓練が行われている。災害に対する研修も職員会議の中で取りあげており、備蓄食材は何がどれだけどこに在庫されているかを職員全員が把握している。また、災害発生時にはどのような対応をしたらよいのか研修時に職員同士で討論がされて認識を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で誇りやプライバシーを損ねない声掛け、対応を心掛け、温かい雰囲気を作りだせる意識している。	相手の言ったことに対し、決して否定しない。何か訴えたいことがあったら先ず利用者の所に行き、寄り添ってあげることが基本姿勢としている。例えば帰宅願望が強く家に帰りたいと行った時には、家族が迎えに来るまで待ちましようね、と軟らかい口調で答えるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の思いを尊重できる様、選択の機会を設け、自己決定につながる支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様一人一人のペースに合わせ、その人らしい穏か安心安全な生活に結びつこう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の身だしなみは職員が声掛けし、御自分でお洒落をされている。他にも2ヶ月に1回の訪問理容に来て頂き整容されている。又、ご利用者様のご家族様の美容室へ職員が付き添い通われている方もいる。毎日お化粧をされている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に調理をしたり、食事の準備・後片付け等、手伝って頂いている。又、ご利用者様と一緒に食卓を囲み楽しく、美味しく食事ができるよう努めている。ご利用者様のリクエストメニューも作っている。	手作りの食事が提供され、利用者も食事が楽しみの一つとなっている。庭の畑から採ってきた「ふきのとう」を天ぷらにしたり、ふきの皮を剥いて煮たり、と結構家庭料理を味わっている。食事のリクエストから近隣の魚屋でマグロを買ってきて、漬け丼にして食べたりと食事に変化を持たせ楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を毎日記載し様子観察を行っている。体重の増減や体調の異変に関しては主治医と相談・指示を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて口腔ケアをして頂き、必要に応じて職員による介助を行っている。歯科医が定期的に口腔ケアを行っている。歯間ブラシなども仕上げの際に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し声掛けにてトイレ誘導、必要な介助を行っている。	「生きる力」を介護の面からどう環境づくりしていくかを根底に考えている。従って、尿意を持たせるようなトイレ誘導や体操をこまめにして排便を良くしていく支援を心掛けている。そこには、ちょっとしたことを見つけていくこと、例えば利用者の動きを読み取る努力が欠かせない。結果、紙パンツから布パンツに変わった人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、入浴や足浴、ホットパット、牛乳、ヨーグルトなど個々の対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めずにその日のご利用者の状態に合わせて入浴を提供している。心休まる時間となる様支援に努めている。夕方の入浴も対応している。	入浴は週のうち3回以上として、入浴日、入浴時間を特に決めず利用者の状態に合わせた対応をしている。入浴中の安全面では、転倒が一番気がかりであり、歩く場所には滑り止めのマットを敷いて注意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の生活習慣を尊重し、その人のペースにて休息をとられている。夜間の足浴、下肢の冷感ある方はレッグウォーマー、湯たんぽなどで安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、作用は全職員が把握しており、変更・追加の際は往診結果をその都度確認し、ご利用者様の様子観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人様・ご家族様より趣味や楽しみをお伺いしホームでの生活にも取り入れ笑顔のある生活につながるよう支援している。読書を楽しんだり、生協のカatalogで好きなものを頼んだり、買い物に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と共に買い物に出掛け御自分の好きな物を購入されている。又、ご家族様と共に墓参りや外食にも出掛けている。	外に出たがる人も多く、大概の利用者がホーム周辺を散歩している。散歩のできない人でも、玄関は常に開放されており玄関から外に出て、ベンチで外気を吸い気分転換を図ることができる。家族が連れ出での外食、外泊は特に規制を設けてはいない。近いうちに、外食としてパスタを食べに行くことを計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様の希望に応じて買い物時現金をお渡しし、安心感を得られている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話・手紙・FAX等外部とのやり取りが出来るよう常に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の場である為、清潔保持に努め細めに換気を行っている。又、飾り付けを行い季節を感じて頂くよう努めている。	毎日の掃除で、利用者もダスキンモップを使って床を掃除している姿が見受けられる。おかげで、リビングは常に清潔感が保たれている。リビングには庭から紫陽花を採ってきて飾られたり、季節に応じた飾り物を作って季節を感じ取ってもらうようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの他、陽のあたりの良い空間を確保し気の合うご利用者様同士で穏かに過ごしている。階を移動することもある。(居室移動)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、御本人様の使い慣れたものや好みのものを置き、居心地良く過ごせるよう環境を整えている。	入居前からの使い慣れた物の持ち込みの中には、仏壇、冷蔵庫、写真・アルバム等が見受けられる。居室内での不安感をなくす上からも、職員と一緒に昔の写真を見ながら会話を進め記憶力の維持に努めるようにしている。安全面からは転倒しやすい人にはベッドの下に滑り止めシートを敷くことがある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故のないよう職員の見守りのもと、積極的にお手伝いをして下さりそれぞれに役割を持っており自立支援の向上に努めている。		